

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40	-	-	3.6
1 音環境		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	遮音等級T-2。	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.7	0.35	-	-	3.7
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-	
1 室温	窓: SC=0.4程度 U=2.8(W/m ²)程度、外壁: U=0.7(W/m ²)程度	3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	4階事務室は床吹出空調方式を採用。	5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		2.8	0.25	-	-	2.8
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口			-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	タスク照度500lx確保。	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		4.4	0.25	-	-	4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、低VOCの建材も採用している。	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	
1 換気量	外気導入量は30m ³ /h・人として設定。	4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	空気取入口は汚染源のない方位とし、各種排気口から6m以上離す。	4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体の禁煙が確認されている。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.9m以上確保。すべての事務室が窓に面する。	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	執務スペースに対してリフレッシュスペースを1%以上確保。	4.0	0.33	-	-	
3 内装計画	コンセプトを反映した色彩計画を行っている。実験室には帯電防止機能のあるビニル床材を採用した。	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	風除室は1次扉と2次扉が同時に開かないよう距離を1.0m以上確保した。外部に露出する金属部材の主な部分を溶融亜鉛メッキの仕様として、アル材も採用している。	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	トイレのあるフロア毎に掃除用流しを設置し、清掃作業に配慮した計画を行った。開梱ごみ置場を設置し十分なスペースを確保した。	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.5	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	保有水平耐力比を1.25倍以上としている。	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	鋼板断熱サンドイッチパネル35塗装品を採用	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	事務室床タイルカーペット6.8(OA707H350)、壁ビニールクロス(PBt12.5+12.5)、天井岩綿吸音板t12(PBt9.5)	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、給湯SUS(C)、汚水排水VP(B)を使用。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		平均階高4.4mである。	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		構造部材を痛めることなく、修繕・更新ができる。	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			4.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.70	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.6	0.50	-	-	2.6
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価		エネルギー消費全体の半分以上の用途構成の把握が可能なモニタリングを計画	3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓に加えて節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニール床タイル、タイルカーペット、磁器タイル(何れも内装床)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のディールを採用。内装材と設備が錯綜せず、O&Aも採用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材が4つ以上ある。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=91%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		行政指導はないが、雨水貯留槽を設けている。	4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		室内にゴミの多種分別可能なストックスペースを設け、有価物の計画的な回収を計画している。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	